

## 五色沼自然探勝路モニタリング報告

### 【目 的】

五色沼自然探勝路中の4つの沼（青沼・るり沼・弁天沼・毘沙門沼）における通景線の確保状況を確認すると同時に、同探勝路路傍の自然変化（帰化植物・希少植物等の生育・分布状況）および探勝路の利用状況などを定期的に観察し、同探勝路の利用および保全整備に資する。

### 【概 要】

#### （ 1 ） 実施期日

- 第 1 回 平成 24 年 5 月 7 日 晴れ （主に希少植物の開花状況等）
- 第 2 回 平成 24 年 8 月 1 日 晴れ （通景線および路傍植生の観察等）
- 第 3 回 平成 24 年 9 月 5 日 曇り （通景線および路傍植生の観察等）
- 第 4 回 平成 24 年 10 月 5 日 曇り（通景線および路傍植生の観察等）
- 第 5 回 平成 24 年 11 月 13 日 晴れ/曇り（通景線および路傍植生の観察等）

#### （ 2 ） 調査者

立花千秋、中村聡子、伊藤延廣（裏磐梯エコツーリズム協会会員）

### 【結 果】

#### （ 1 ） 通景線の確保状況

- ・ 第 1 回目の調査は時期的にも早く、通景線の状況よりは希少植物の開花状況に重点をおいて調査した。そのため通景線については調査記録を省略したが、まだヨシが伸びていないので全ての沼の通景線は確保されていた。第 2 回目は、ヨシの倒伏作業の前後の比較のため作業の前日に行き、第 3 回目以降は毎月 1 回のペースで経過を観察した。
- ・ 青沼（地点 3）：青沼の視点場（ベンチ設置箇所）は、沼の水面から 6～7 m 高い位置にあり通常でも通景線はある程度確保されているが、ヨシの倒伏作業（8 月 2 日実施）により視界が開け、沼が観察しやすくなっている。
- ・ るり沼（地点 4）：るり沼の視点場は水面に近く、恒常的に通景線は確保しにくい。ヨシの倒伏作業により通景線は確保されているが、当初に比べると左側がやや狭くなっている。
- ・ 弁天沼（地点 6）：弁天沼は展望デッキが視点場となっているため通景線は確保されているといえるが、展望デッキに上がらなければヨシに遮られて視界はまったく得られない。また展望デッキ前のヨシは数十メートル沖まで繁茂している。

- ・ 毘沙門沼高台（地点 11）：ここも沼の水面からは数十メートル高く、初年度に行われた作業（ヨシの刈り取り・障害木の除去）により通景線は確保されている。高台左側（白布山側）のススキは、初年度には除去（刈り取り）が行われたがその後は除去されていない。

## （２） 外来植物の生育状況

- ・ オオハンゴンソウ（地点 10・11・12 およびその周辺）：毎年夏の一斉駆除活動の成果が表れており、毘沙門沼付近のものはかなり減少しているように見える。しかし、駆除後しばらくで路傍にそのロゼットが顔を見せている。毘沙門沼以外では、柳沼、弁天沼付近（地点 5）の路傍にも散見されたが、その多くが駆除され減少している。
- ・ キショウブ（地点 1 および 2）：柳沼北岸および北西岸に、人為的に植栽されたと思われる形で見られる。また、この場所ではヒオウギアヤメ、ミクリなどと混生している。
- ・ マルバハッカ（地点 2）：キショウブ同様、柳沼北西岸に人為的に植栽されたような形で生育していたが、駆除されたような痕跡があり減少している。このほか、毘沙門沼畔（地点 13）にもヨシの根元に生育している。これは人為的なものか否かは判然としない。
- ・ コカナダモ（地点 1 付近）：昨年、柳沼北岸の水中に繁茂しているのを確認したが、今夏以降は減少している。

## （３） 希少植物の生育状況

- ・ ミクリ（地点 1 および 2）：柳沼北岸および北西岸に、外来種（キショウブ・マルバハッカ）と混生している。
- ・ ツバメオモト（地点は表示せず）：前年と同様のエリアに、二十数株生育しているのを確認した。開花、結実ともに確認できている。
- ・ オオアカバナ（地点は表示せず）：前年と同様のエリアに、ヨシとの混生状態で二十数株生育しているのを確認した。
- ・ トキソウ（地点は表示せず）：開花期を逃し確認できず。
- ・ ヒロハツリバナ：毘沙門沼畔で確認した。
- ・ ヒメイチゲ（地点は表示せず）：前年と同様のエリアに、数輪開花しているのを確認した。

## （４） 木道・ぬかるみなどの歩道整備箇所

- ・ 歩道上のぬかるみは、時期・天候などによって発生したり消滅したりを繰り返しているため、恒常的にぬかるんでいる特定の場所を除いては問題にはならない。

- ・ 第1回目の調査は、雪解け間もない時期だったため、随所にぬかるみができていた。るり沼から弁天沼への歩道では、雪解け水が歩道上を流れていた。
- ・ 先に記した特定の場所とは、弁天沼展望デッキ前（地点6）の木道の西端部と次の弁天沼・竜沼間の休憩場所（地点8：“流れ”のわきにベンチがある）の西側にある木道の西端部であり、この2箇所は程度の差こそあれいつもぬかっている。
- ・ このほか従来報告されていた“歩道外への踏み込み跡”は、路傍の植物丈が高くなると見つけにくくなり、最近踏み込んだような痕跡は見当たらない。

#### （5）その他

- ・ アカマツの立ち枯れ（地点7）：弁天沼南岸の休憩場所（ベンチ設置あり）の前に、立ち枯れたアカマツ6本が残されている。
- ・ 危険なベンチ（地点9）：深泥沼畔の休憩ベンチ（コンクリート製）が倒れて危険な状態にあったが、第5回の調査時には修復されていた。

### 【考 察】

#### （1）通景線確保

- ・ 通景線確保の対象となった4つの沼（青沼・るり沼・弁天沼・毘沙門沼）は、整備作業（ヨシの倒伏・刈り取り等）の結果いずれも良好な視界を確保されているが、倒伏作業後にところどころにヨシやヤナギが残っている。もう少し丁寧な作業が望まれる。
- ・ 弁天沼は、展望デッキがあるので整備作業は行われていない。そのためヨシは伸び放題に伸び、展望デッキに登らなければ眺望（沼と吾妻山遠望）は得られない。同時に、展望デッキ前のヨシ原は沖に向かって広がりをみせ、すでに弁天沼そのものも遠景としてしか見られなくなっている。なんらかの対策を検討する必要があるのではないか。
- ・ 上記4つの沼に限らず、多くの沼でヨシ以外の陸域の植生によって視界が阻害されているケースが目立つ。その阻害要因の多くがアカマツやイタヤカエデなどの高木の枝であり、クワノキやヤナギなどの中低木である。
- ・ 識者によれば、これら陸域の植物などは、“五色沼自然探勝路周辺の生態系を維持するために残すべきもの”ではない由、その除去等も含めて探勝路全体の景観の確保について検討する必要があるように思われる。

#### （2）特定外来植物

- ・ オオハンゴンソウ：毘沙門沼周辺に多く点在し繁茂の勢いは強いが、毎年8月に行われる一斉駆除活動および駆除認定団体による駆除（随時）の効果が現れている。特に毘沙門沼近傍以外に点在していたものは、その個体数を減らしている。今後も

こうした駆除活動を継続し、少しでも減少させていければ良いものと思われる。

- ・ キショウブ：柳沼北岸および西岸に点在していたが、西岸にあったものは駆除されているように見受けられる。北岸のものは私有地？に植栽されたものらしいので、勝手に駆除することは難しいができれば駆除したい。
- ・ マルバハッカ（ミント）：これもキショウブ同様主に柳沼周辺に見られたが、西岸にあったものは駆除されたのか数は減少している。毘沙門沼（地点12）のものも、機会を見て駆除したい。
- ・ これら特定外来植物は、今後も機会を見て駆除していく必要があるだろう。
- ・ コカナダモ：柳沼の北岸（水中）にみられたが、若干衰弱し減少したように見られる。これは、平成24年9月に福島大学によって駆除活動が行われた由である。

### （3）希少植物

- ・ これはモニタリング活動開始当初、担当してくれた故平野恭弘氏（元パークボランティア）から提案され継続しているもので、下記の数種についてその生育状況を観察している。
- ・ ツバメオモト：当初から継続観察している個体群（20数株）は、探勝路から少し奥まったところに生育しているため、盗掘等にはあっていない。
- ・ ヒメイチゲ：個体が小さく気がつきにくいこともあってか、盗掘等にはあっていない。
- ・ ヒロハノツリバナ：探勝路傍に生育しているが、木本であることから気がつかれていないのか？傷められることもなく生育している。
- ・ オオアカバナ：背の高いヨシの茂みに混生しているため傷められてはいないが、ヨシとの混生という点がその成長にどのような影響を与えているのか気になるところである。

### （4）歩道整備箇所

- ・ 探勝路全般を見たとき、整備状況はかなり良くなっているように見える。木道の敷設箇所は、雨の時などその末端部に水がたまりぬかるむことが多い。探勝路を歩く人にとってはぬかるみがないほうが歩きやすいのは当然であり、ぬかるみを避けて通ることによって探勝路の幅員が広がってしまうこと、路傍の植生が踏みつけられることには問題があるので、どの程度まで整備をするかは関係者で協議する必要があるだろう。
- ・ 探勝路の路面に突き出た岩などにつまずいて転倒する人を何度か見受けたが、探勝路中は特別保護地区であり出入り口にはその旨を記した標識が設置されているので、必要以上に手を加えることはないものと思う。

( 5 ) その他

- ・ 何度かモニタリング報告書で指摘しているが、弁天沼畔の立ち枯れたアカマツ(6本)は処分しなくて良いのだろうか。周りに健康な立木もあり倒れた場合でも直接的な被害は少ないとは思われるが、すぐ近くにベンチも設えられていることを考えると早い時期に処分したほうが良いように思われる。
- ・ 深泥沼畔に設置され横倒しになっていたベンチについては、修復が完了し観光客が利用する姿が見られた。

以上